

読書の小径

Vol.117

土岐市図書館

☎1253

新刊案内



「ふゆって どんな
ところなの？」
工藤ノリコ／作・絵



「リッキのたんじょうび」
ヒド・ファン・ヘネヒテン
／作・絵

忠臣蔵の決算書	山本博文
ベッキー ラッキー ツアー in ヨーロッパ	ベッキー
一生使えるファッションノート	榎村さとる
かわいいチョコレートのお菓子	若山曜子
鉄道が変えた社寺参詣	平山昇
ナモナキラクエン	小路幸也
箱根駅伝を歩く	泉麻人
僕の死に方	金子哲雄



「グリム童話」

グリム童話の初版出版から200年。グリムイヤーとなる今年、ドイツではさまざまなイベントが催されるようです。今回はグリム童話にまつわる本を紹介します。

ガブリエーレ・ザイツ『グリム兄弟―生涯・作品・時代』。全世界で親しまれるグリム童話は、どのように成立したのか。メルヘンや昔話を来るべき共同体の精神的支えとし、精力的に収集・研究したグリム兄弟の波乱の生涯とその時代の全貌を生き生きと描き出します。(近代)の意味するものを問う評伝です。

ハンス・トラウスラー『本当にあった？ グリム童話「お菓子の家」発掘―メルヒェン考古学「ヘンゼルとグレーテルの真相」』。「ヘンゼルとグレーテル」は史実に基づいた作品だった!? 民間研究者がお菓子の家を発掘、そして魔女の正体に迫り…。1963年に出版され、センセーションを巻き起こしたパロディ本が、出版から50年を経て翻訳されました。

沖島博美『グリム童話で旅するドイツ・メルヘン街道』は、ドイツ・グリム兄弟協会会員の著者によるビジュアルガイドブックです。ドイツ中部の童話の舞台となるまちを巡りながら、街道の終着点・ブレイメンまでの全長600kmの旅を紹介しています。牧歌的な魅力と小都市の煌めきを感じさせるメルヘン街道の町々は、200年前のドイツや中世のヨーロッパを見ているかのようです。

2月の休館日

4日(月)、18日(月)、22日(金)、25日(月)

開館時間

火～金曜日 10:00～19:00

土・日曜日、祝日 10:00～17:00

図書館は無料でご利用いただけます。

お知らせ

3月10日(日)午後1時30分から、文化プラザ視聴覚室で「読み聞かせフェスティバル」を開催します。図書館などで活動しているボランティアの皆さんによるペープサート(紙人形劇)での「土岐市の昔話」の上演や紙芝居、手遊びなどが楽しめます。ぜひ遊びに来てください。